**場所**　三重県いなべ市

**面積**　1.152ha

**活動目的**　開発などによって失われていく郷土の自然と藤原岳に見られる好石灰岩性の植物群落を再現し、市域の自然の豊かさと素晴らしさ、大切さを後世に伝えていく自然学習の場として維持管理することを目的とする。

**サイト概要**　本サイトは三重県いなべ市藤原町の標高160m～190mに位置し、自然学習園ふるさとの森として、いなべ市で見られる自然植生を４区画に分けて再現している。①藤原岳山頂付近の石灰岩地帯の植生を再現した「ロックガーデン」、②藤原岳の標高700m前後から上部にかけて発達する冷温帯林(落葉樹林)を再現した「シデ・モミジ林」、③暖温帯林(常緑樹林)を再現した「シイ・カシ林」及び④雑木林を再現した「コナラ林」に分けており、各植生にあった、いなべ市産の在来植物を移植している。多様な生態系があることによって、絶滅危惧種などを含む多種多様な生物が生息している。





**土地利用の変遷**

元々は丘陵尾根部に発達するアカマツ林で、松枯れによりススキやネザサ、灌木が茂る荒地であった。隣接するいなべ市藤原文化センターが1988年に建設されたことにあたり1992年に公園の整備計画が始まった。整備完了後はいなべ市（いなべ市教育委員会事務局）が管理している。

**サイト周辺の環境**

南西の方角1㎞程に鈴鹿国定公園がある。申請サイト周辺は、コナラ等の落葉樹林、アカガシ等の常緑樹林、スギ等の植林及びそれらの混交林からなる二次的な山林がある。隣接するいなべ市藤原文化センター周辺は草刈りが行われており草地が広がっている。

**アピールポイント**

当園は藤原岳の石灰岩採掘や工業団地、ゴルフ場などの地域の開発によって失われる希少種を含む在来植物を移植して造られており、現在も同様に地域の高速道路などの開発によって失われる希少種の保護として移植を受け入れている。また、四季折々の自然を感じることができ、自然学習の場として藤原岳自然科学館が行っている自然教室や小学校の授業などで積極的に活用している。藤原岳山頂付近に分布する希少草本種から、いなべ市周辺に見られる樹木を、一度に観察できる教科書的な場所でもある。

## 生物多様性の価値

### 価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

**【場の概況】**

本サイトは「ロックガーデン」、「シデ・モミジ林」、「シイ・カシ林」、「コナラ林」の4区画に分かれており、四季折々の自然を感じることができ、自然学習の場として藤原岳自然科学館が行っている自然教室や小学校等の授業、社会見学等で利用される。

**【主な植生】**

区域内は石灰岩地植生を模したロックガーデン、冷温帯林を模したシデ・モミジ林、暖温帯林を模したシイ・カシ林、雑木林を模したコナラ林がある。

**【確認された主な動植物など】**

本サイトでは植物300種類(移植含む)、哺乳類8種、鳥類22種、爬虫類6種、両生類5種、昆虫類106種が確認されている。主な種は以下のとおりである。
哺乳類：ホンドギツネ(Vulpes vulpes japonica,成獣)、ニホンノウサギ(Lepus brachyurus,成獣・糞)
鳥類：モズ(Lanius bucephalus,成鳥)、ジョウビタキ(Phoenicurus auroreus,成鳥)
爬虫類：ニホンカナヘビ(Takydromus tachydromoides,成体)、シロマダラ(Dinodon orientale,成体)
両生類：タゴガエル(Rana tagoi tagoi,成体)、モリアオガエル(Zhangixalus arboreus,成体)
昆虫類：カブトムシ(Trypoxylus dichotomus septentrionalis,成虫)、ホソミオツネントンボ(Indolestes peregrinus,成虫)、ショウリョウバッタ(Acrida cinerea,成虫)、アブラゼミ(Graptopsaltria nigrofuscata,成虫)、ジャコウアゲハ(Byasa alcinous,成虫)
植物：フユノハナワラビ(Botrychium ternatum var. ternatum)、カントウマムシグサ(Arisaema serratum)、キンミズヒキ(Agrimonia pilosa var. viscidula)、スズカアザミ(Cirsium suzukaense)、オトコエシ(Patrinia villosa)



写真の撮影年月：2022年6月
写真の説明：藤原岳自然科学館が行う自然教室の様子



写真の撮影年月：2022年10月
写真の説明：小学校の社会見学の様子

**生物多様性の価値**

## 価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

**【場の概況】**

区域内は石灰岩地植生を模したロックガーデン、冷温帯林を模したシデ・モミジ林、暖温帯林を模したシイ・カシ林、雑木林を模したコナラ林がある。

**【確認された希少種】**

本サイトで確認された希少種は両生類１種、昆虫類7種、植物4種である。主な種は以下のとおりである。

両生類：
　トノサマガエル(Pelophylax nigromaculatus、環境省RL：NT)

昆虫類：
　ニシキキンカメムシ(Pecilocoris splendidulus、三重県RDB：VU)
　シロヘリツチカメムシ(Canthophorus niveimarginatus、環境省RL：NT、三重県RDB：NT)
　トゲアリ(Polyrhachis lamellidens、環境省RL：VU)

植物：
　キンラン(Cephalanthera falcata、環境省RL：VU、三重県RDB：VU)
　ササユリ(Lilium japonicum var. japonicum、三重県RDB：NT)
　ウメガサソウ(Chimaphila japonica、三重県RDB：NT)



写真の撮影年月：2022年7月
写真の説明：ニシキキンカメムシの幼虫



写真の撮影年月：2018年4月
写真の説明：キンラン

## サイトの活動計画・モニタリング計画

### 活動計画の内容

＜活動目的＞
開発などによって失われていく郷土の自然と藤原岳に見られる好石灰岩性の植物群落を再現し、市域の自然の豊かさと素晴らしさ、大切さを後世に伝えていく自然学習の場として維持管理することを目的とする。

＜活動内容＞
上述の価値（4）、（6）の保全に貢献するよう以下の保全・利用活用を行う。
全域：自然学習の場として利用しやすいように、園路の除草や落ち葉かき、移植・植栽した植物周辺の除草や除伐、通行の妨げとなる枝や倒木等の除去、看板等の設備点検及び補修といった整備活動を行う。（価値（4），(6））
ロックガーデン：一部を除く常緑樹の除伐とセイタカアワダチソウなどの外来植物の除去をする。（価値（4），(6））
シデ・モミジ林：一部を除く常緑樹の除伐と樹林の適宜間伐、下草刈り。また、希少種の食害を防止するための簡易柵の設置。（価値（4），(6））
シイ・カシ林：適宜間伐と下草刈り。（価値（4），(6））
コナラ林：下草刈りと希少種の食害を防止するための簡易柵の設置。（価値（4），（6））

＜実施体制、計画の点検・見直し＞
藤原岳自然科学館の職員が保全・利用活動その他維持管理作業を行う。必要に応じて、部分的に外部団体の協力を得る。
本活動計画は１年に１回点検を行い、５年に1回改定。

### モニタリング計画の内容

**【モニタリング対象】**
哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、維管束植物を対象とする。

**【モニタリング場所】**
ロックガーデン、シデ・モミジ林、シイ・カシ林、コナラ林の全域。

**【モニタリング手法】**
サイト内（園路）を歩いて生息する対象種を可能な限り写真で記録し、必要に応じて学術標本を作製して保管する。

**【モニタリングの実施時期及び頻度】**
基本的に毎年、月1回以上の頻度で実施する。

**【モニタリング実施体制】**
藤原岳自然科学館の職員が中心となって実施する。
藤原岳自然科学館が行う自然教室（観察会）で本サイトを利用する場合は参加者や外部講師と共に行う。